

2018年3月期第3四半期 決算電話会議 質疑応答要旨

日時：2018年2月1日（木） 11：00～11：40

お断り：この要旨は、決算電話会議にご出席になれなかった方々の便宜のためにご参考として掲載するものであり、電話会議でお話ししたことの一字一句を書き起こしたものではありません。当社の判断で簡潔にまとめさせていただきました。ご了承ください。

Q. アジアにおける電子産業向けハードについて、受注高と営業利益の上振れ要因についてコメントいただきたい。

A. アジアにおいては、半導体・FPD 向けの大型案件の受注が想定以上に続いている。案件の母数が増えていることに加え、これまでの当社実績に対する顧客の評価が上がり、受注の確度が上がった面もあると考える。利益の改善については増収の効果がある。

Q. 原油価格上昇のコストへの影響はあったか。

A. 主に水処理薬品事業のコストに影響があるものだが、今のところ大きな影響はないと見ている。原油価格の変動から影響が出るまでにはタイムラグがある。

Q. 水処理薬品事業について、人件費や IT 関連費用が増加しているとの説明があったが、元々どのくらいの増加の想定で、どのくらいの進捗になっているのか。

A. 経費については期初の想定より増えている訳ではない。海外での積極展開のための人員増や、国内でも水処理薬品とメンテナンスを統合したソリューション提案を進めているが、それらに見合った増収や収益性改善といった効果の発現にタイムラグがあり、第3四半期の収益性が低下したと見ている。第4四半期以降は効果の発現による収益性の改善に期待している。

Q. 海外の水処理薬品事業について、アジアや欧州の状況を教えてほしい。

A. 円ベースの第3四半期累計で、アジアは3.5%増、EMEAは5%増だった。北米は新規連結により約9倍になっている。

Q. 水処理薬品事業のうち、フレモント社の10-12月*の売上高と利益を教えてほしい。

A. 円ベースで売上高は約9億円、のれん償却前の営業利益はトントン。

*海外子会社の会計期間は1-12月。

Q. 国内水処理薬品の10-12月の売上高は増収になっているか。

A. 2.3%の増収となっている。

Q. 今期の受注高見通しとして2,480億円を見込んでいるが、生産能力やリードタイムを踏まえて来期の売上高はこの受注高程度を見込めるのか定性的にでも教えてほしい。

A. 次期計画は策定中ではあるが、生産効率は海外も含めて上がっており、同程度は売り上げていけるかと考えている。

- Q. 中国・韓国向けの受注高見通しを上方修正しているが、受注採算はどうか。また契約形態は単純にハードを売り切るのか、それともその他の形態の可能性はあるのか。
- A. 受注時の採算性については従来どおりで、増収による採算改善もあると考えている。契約形態については、中国においては投資への補助金が出るため超純水供給契約となる可能性は低く、EPCにメンテナンスやオペレーションを加えた提案になると思う。
- Q. EPCにメンテナンスとオペレーションを加えた利益率は、超純水供給に近いのか、それとも単なるハードの売り切りに近いのか。
- A. ハードにサービスを加えることで、超純水供給に近づけていきたい。
- Q. 水処理薬品事業において、10-12月の顧客の稼働状況について教えてほしい。例えば中国の環境規制の強化による工場稼働率の低下や、スマホ減産の影響はなかったか。
- A. 中間決算時にご説明した事業環境から大きくは変わっていないと考えるが、国内外ともに、顧客の操業度が落ちているということはない。
- Q. 中国での水処理薬品の売上高は回復しているか。
- A. 10-12月は堅調であり、現地通貨ベースで9%ほど伸びている。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。